



おおさか歯科・歯科九条は、発足5周年を記念して6日、ジャーナリス



「憲法を活用することが世界の常識」と訴える伊藤千尋氏=6日、M&Dホール

「基地消える」が世界の流れ

5周年記念で伊藤氏が講演

トで朝日新聞記者の伊藤千尋氏を招き、M&Dホールで講演会「激動の世界から見た日本国憲法九条」を開いた。参加した医師・歯科医師ら70人に、伊藤氏は「憲法を守るとか、変えるとかの前

に、一度、憲法を「活用してみよう」と呼びかけた。講演会は、歯科協会・協同組合創立40周年、医科協会創立50周年の合同記念企画。

混迷極める米軍普天間基地の移設問題に関連し、伊藤氏は「世界の流れは『基地が消えている時代』と話し、米軍基地を廃止させたフィリピンやエクアドルの例を紹介。フィリピンでは、跡地開発で基地労働者数の2倍以上の雇用を生んでいることを示し、日本でも基地の「廃止」ととも

に代替案の議論の必要性を強調した。伊藤氏は、各国での取材経験をもとに、九条の精神が世界に広がっていることを説明した。アメリカの力強いカナリア諸島では日本国憲法九条の記念碑が建立されている。中南米のコスタリカでは1949年の制定以来、平和憲法が息づいており、内戦状態にあった周辺国に大統領が対話を呼びかけて解決したことや、憲法に基づき軍事費を丸ごと教育費に充てたことを指摘した。ベネズエラでも、市民が医療や福祉などを受ける権利を行使するために、憲法を活用していることを紹介し、外交や生活のために「憲法

でも本読みが上手でなければLDを疑うとした。HFPDDとは、自閉症と同質の社会的障害を中心とする発達障害の総称で、清水氏は高機能自閉症や症状を説明した。軽度MRは、IQ70以下で知的発達と適応能力が低く、ADHDは適応

能力と行動発達が低い。ADHDの特徴は、一つのことの意識をこられ、ほかのことは忘れる傾向がある。アスペルガー症候群についても話した。2005年4月施行の発達障害者支援法では、発達障害者自閉症、アスペルガー症候群、その他

の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害と定義している。特に二次障害の防止を強調し、早期発見、早期診断の重要性を指摘した。また、精神科疾患を抱える保護者が多いことを指摘し、保護者への対応法を述べた。

最後に、①障害を軽減する最大の手段は関わる人の障害受容であること②保護者・教師・医療機関・職場との連携③大人の発達障害や職場環境設定の重要性や自院での取り組みについて述べ、質疑応答をして講演を終了した。

は、①金属の種類が限られる②内服による症状悪化の可能性——などの問題があると指摘した。アレルギー治療で歯科金属を除去しても、有効だったのは42例中21例にすぎず、今後、テスト結果とともに金属の成分を分析できれば、治療成績の向上が期待できると展望を示した。

「私たちが一人ひとりが、ユニークな発想で生き生き活動することが大切。それが社会を変える出発点になる」と強調し、九条の会の活動に期待を寄せた。

その上で、「憲法九条の良さは一回使ってみて分かること。日本でも憲法を活用してみよう」と「活憲」を訴えた。伊藤氏は最後に、着物の女性の活動を紹介。街で声をかけられるたびに、「着物も憲法も良いものですよ」と対話し、九条を広めている。

協会の大阪市西部地区は、「歯科領域に関連の深いアレルギー疾患」をテーマに2月27日、M&Dホールで講習会を開き、35人が参加した。講師は大阪市立大学大学院

医学研究科講師の太田順子氏。太田氏はアレルギー疾患のうち、歯科領域に関連の深い金属アレルギーと、口腔アレルギーと、合成ゴム製品に接触することで発症するラテックスアレルギーについて解説し、治療の展望を語った。

太田氏は、金属の経皮接触によるものと、経皮以外の金属の吸収によるものがあ、診断方法としてパッチテストと金属内服テストを紹介。パッチテストでは、経皮以外の吸収による金属アレルギーの確定診断ができないため、内服テストが必要となる。内服テスト

が発症するアレルギーは、原因として非加熱の果物類や、花粉症に関連していることが多いことを紹介。ラテックスアレルギーに関しては、患者がクリやバナナなどの食物摂取で発症するラテックスアレルギー症候群があるとして注意を促し、ラテックスを含む医療品を禁止する必要があるのではないかと提言した。

診者から寄せられた相談を聞きながら、丁寧にブラッシング指導を行った。出務した衛生士らは「ブラッシングの方法などについて熱心に相談してくれるし、全体的に歯がきれいな人が多い」と語っていた。

健康まつりで歯科健診 6日には、西淀病院のざと診療所(西淀川区)と、とみもと歯科(健康まつり)で歯科健診に取り組み、子ども連れの若い夫婦や高齢者ら54人が受診した。

発達障害患者への対応

清水氏「受忍と連携で負担軽減を、」

2月 生涯研修



発達障害患者への対応について、会場から質問が相次いだ生涯研修講座=2月20日、M&Dホール

発達障害は心理的発達「の行動および情緒の障害」と分類される。発達障害として、小児期・青年期

発達障害は心理的発達「の行動および情緒の障害」と分類される。発達障害として、小児期・青年期

発達障害は心理的発達「の行動および情緒の障害」と分類される。発達障害として、小児期・青年期

発達障害は心理的発達「の行動および情緒の障害」と分類される。発達障害として、小児期・青年期

発達障害は心理的発達「の行動および情緒の障害」と分類される。発達障害として、小児期・青年期

発達障害は心理的発達「の行動および情緒の障害」と分類される。発達障害として、小児期・青年期

発達障害は心理的発達「の行動および情緒の障害」と分類される。発達障害として、小児期・青年期

発達障害は心理的発達「の行動および情緒の障害」と分類される。発達障害として、小児期・青年期

金属を除去しても効果は5割

歯科領域のアレルギーで講習会

大阪市西部地区は、「歯科領域に関連の深いアレルギー疾患」をテーマに2月27日、M&Dホールで講習会を開き、35人が参加した。講師は大阪市立大学大学院

医学研究科講師の太田順子氏。太田氏はアレルギー疾患のうち、歯科領域に関連の深い金属アレルギーと、口腔アレルギーと、合成ゴム製品に接触することで発症するラテックスアレルギーについて解説し、治療の展望を語った。

太田氏は、金属の経皮接触によるものと、経皮以外の金属の吸収によるものがあ、診断方法としてパッチテストと金属内服テストを紹介。パッチテストでは、経皮以外の吸収による金属アレルギーの確定診断ができないため、内服テストが必要となる。内服テスト

が発症するアレルギーは、原因として非加熱の果物類や、花粉症に関連していることが多いことを紹介。ラテックスアレルギーに関しては、患者がクリやバナナなどの食物摂取で発症するラテックスアレルギー症候群があるとして注意を促し、ラテックスを含む医療品を禁止する必要があるのではないかと提言した。

診者から寄せられた相談を聞きながら、丁寧にブラッシング指導を行った。出務した衛生士らは「ブラッシングの方法などについて熱心に相談してくれるし、全体的に歯がきれいな人が多い」と語っていた。

健康まつりで歯科健診 6日には、西淀病院のざと診療所(西淀川区)と、とみもと歯科(健康まつり)で歯科健診に取り組み、子ども連れの若い夫婦や高齢者ら54人が受診した。

転職・就職活動をお手伝いします!!

ヒューマンリソース

ハーモニック

和田精密歯研(株)グループ



- ◎ホームページ <http://harmonic-net.co.jp>
- ◎e-mail info@harmonic-net.co.jp
- ◎フリーコール 0800-111-4510 (イー・じこ)

☎ まずはお気軽にご相談下さい。(相談無料)

歯科医師

歯科衛生士

弊社では関西圏に登録病院300件以上の実績がございます。信頼のおけるエージェントがあなたに合った歯科医院をお探し致します。

お申し込み～勤務まで

STEP1 弊社エージェントとの面談(求職本登録の完了)

ご希望をお伺いし、求人票を提示いたします。

STEP2 面接・見学(希望求人先とのマッチング)

エージェントが同行いたしますので安心下さい。

STEP3 体験アルバイト実施(ご希望の方を対象とします)

体験アルバイトについては、給与+交通費が支給されます。

STEP4 採用(ハーモニックからのご連絡)

不成立の場合は、新しい求人先をご紹介します。

「クリック」

ハーモニックネット

検索